

「第22回 ゆきかう那賀川推進会議」を開催

令和8年2月12日（木）に、「南部総合県民局阿南庁舎の中間会議室にて、「第22回 ゆきかう那賀川推進会議」（以下、推進会議。）を開催しました。今回の推進会議には、委員12名とオブザーバー1名の計13名が出席しました。

今回の推進会議では、令和7年度の推進会議や各委員の取組について報告を行いました。

その後、令和8年度の取組（案）について、意見交換を行いました。意見交換を行った項目については以下の通りです。

1. 那賀川流域写真展について
2. なかがわ探検バスツアーについて
3. みなみ阿波観光局からの情報発信について
4. 水辺で乾杯について



1. 那賀川流域写真展について

【事務局】

今年度は平井委員および湯城委員から紹介のあった民間の写真家の方の写真を展示した。令和8年度は新たな開催場所として阿南市のひまわり会館を考えているが、新たな開催場所や写真提供者について提案等があればいただきたい。

【委員】

協力してくれる企業がいるかはわかりませんが、利水者協議会から企業の方に展示場所の提供をお願いできないか声かけをしたいと思います。

【委員】

那賀町ではダムフォトコンテストなどに代表される様々な写真のコンテストを開催しています。また担当課の職員も町内のさまざまな写真を撮影しているので、そういったものが提供できるかと思います。

【委員】

病院で入院患者向けに写真を展示することができれば、入院されている方の心のよりどころになるのではないかと思います。

【委員】

阿南市医療センターに呼びかけることは可能ではないかと思います。

【委員】

徳島県では、県立病院や徳島大学病院の方とも連携の体制をとっておりますし、病院内で入院の方を対象にした展示をしているというのは、報道等でも見たことがございます。今回ご提案があった内容については、我々の方で照会をかけて、どのような形で開催できるかというところも含めて情報を集めて、また事務局の方にお返ししたいと思います。

【委員】

川口ダム自然エネルギーミュージアムは小学生をはじめ、ご家族の方にも来ていただいております。展示場所として提供できると考えています。ただ狭い施設ですので、展示スペース等についてはまたご相談させていただく必要があると思います。

2. なかがわ探検バスツアーについて

【事務局】

魅力的な企画にするためのアイデアや PR の方法についてご意見をお願いします。

【委員】

現状のメニューは子供たちにとっては刺激が少ないのではないかと感じます。予算の問題はありますが、午前中はこれまで通り自然について見て回って学ぶ、午後からはラフティングや乗馬などで自然の中で体を使って思いっきり遊ぶといったメニューにしても良いのではないかと思います。また山のおもちゃ美術館などに来てもらえば、後々のリピーターになってもらえる効果もあると思います。

【委員】

校長会でバスツアーの提案・PR は可能。吉井小学校がイノベーションスクール（小規模特認校）として、令和 8 年度からスタートする。特色にある学校づくり進め、教育の質の向上や子供の確かな学びの場を育みための観光を創出する狙いがあるので、このようなバスツアーを提案することは可能であるが、判断は学校長による。

【委員】

山の中でもその辺にあるもので、お金をかけずに遊ぶことはできます。受け入れを行った立場としては時間が足りないと思いました。子供たちは時間を忘れて遊びます。竹だけをあたえても自由にいろいろな物を作りというもの作り体験になります。

【委員】

鹿の解体ショーの見学もよいのでは。

【委員】

参加者を募るには、口コミによる宣伝も必要

3. みなみ阿波観光局からの情報発信について

【事務局】

情報発信についてはみなみ阿波観光局、阿南市、那賀町、事務局の 4 者にて打合せを進めているところです。今回、みなみ阿波観光局の方から継続的に PR を行っていくのであれば推進会議のロゴマークを作ってはどうかのご意見がありましたので、以前の会議で議題にあがったキャッチコピーも含め、作成に関してご意見をお願いします。

【委員】

知名度アップのことなどを考えるとやはりロゴマークやキャッチフレーズ、モニュメントといったものは必要だと思います。作成の方法に関しては公募でアイデアを募って、それを最終的にプロに手直ししてもらった方がいいのではないかと思います。

またバスツアーもそうですが、公募にあたって小学校の先生や PTA など気軽にそういった事を相談、依頼できる人を作っておく必要があるのではないかと感じます。

那賀川のイメージとしては「竜」、弱アルカリ性の地域であることから「健康」、辰砂（若杉山）、大理石、石灰岩など。

【委員】

事例として上がっている吉野川の「藍より青き吉野川」や仁淀川の「仁淀ブルー」などは直感的に絵が浮かんでくる、非常に印象的で鮮烈な印象のキャッチコピーであると感じます。そうしたロゴマークやキャッチフレーズを作るに際してはこちらがある程度、色や特徴などのテーマを提示する必要があるのではないのでしょうか。色が目に浮かぶイメージがあれば良いと思う。また、公募に関しては、小学校の夏休みの宿題の一つとして取り入れてもらえないか校長会で交渉していただいたり、高校の美術部やデザイン部に依頼したりといった方法もあるかと思います。

4. 水辺で乾杯について

【事務局】

水辺を賑わす目的で、青いものを持って7月7日の7時7分に水辺で乾杯するというイベントを毎年、阿南市の桑野川にある浜の浦公園で行っています。阿南市では市役所で夕暮マルシェというイベントをしており、今後そういった団体と連携しながら開催できればと考えていますが、こちらについてご意見をお願いします。

【委員】

夕暮れマルシェについては毎月第一水曜日に開催をしておりますので、日程については折り合いをつけなければいけない部分があるかと思います。開催場所に関しても浜の浦公園は市役所からの距離が遠く、規模を広げた時に駐車スペースが足りないといった問題がありますので、市役所の裏にある歩道専用の横見橋に変更することは可能かと思います。しかし、横見橋で行う場合は安全面やゴミが川に落ちるなどの課題があるかと思います。また、仮に夕暮れマルシェと一体で開催できた場合に水辺で乾杯の特色をどのように残したら良いかといった課題もあるかと思います。

【委員】

夕暮れマルシェと水辺で乾杯は分けて実施できればと思います。あくまでマルシェの実施については運営者にまかせ、行政は場所の提供や広報など協力出来ればと思います。実施日は、7月7日に全国一斉で行っており、その日で行いたいと考えます。

【委員】

利水者協議会では、いつもイベントと合わせてヒラメの放流を行っていて大変人気になっています。そういった子供が参加できるような枠組みができれば

ば、一緒に河川の清掃もしてやったらどうかと感じました。場所につきましては、市役所周辺というところもあるかも知れませんが、たくさんの人に来ていただくということでしたら、岩脇周辺を検討しても良いのではないかと思います。

【委員】

水辺で乾杯だけでなくサイクリングコースの設定に関してもですが、その取組が関わる方にとってメリットのあるものでなくてはならないのではないかと感じます。例えばサイクリングコースであれば、そのコース内の飲食店も紹介していただくとか、水辺で乾杯に関してももみじ川温泉のような施設と連携していくといったことも検討してはどうでしょうか。



7. 総括

【委員】

本日は活発なご意見をいただきありがとうございました。本会議では上下流で連携して様々な取組を行っておりますので、上下流を意識した、ロゴマークやキャッチフレーズを作っていただければと思います。また、高知家のようにピンバッチ等を皆さんが持てば、この那賀川の取組みを対外的にもPRできるのではないかなと思っております。本取組が今後より一層活発に進められることをお願い申し上げます。